

■スコットランド国立図書館所蔵 アーサー・C・マレーの書簡をデジタル化

対米およびアイルランド外交に関する記録

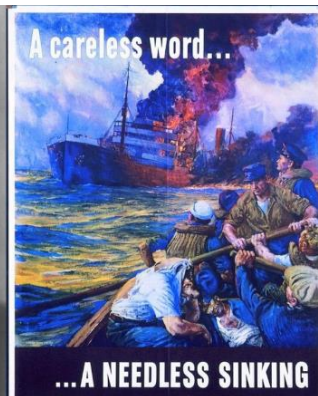
British diplomacy with America and Ireland, an Ambassador's letters, 1909-1962

フランクリン・D・ローズヴェルトと英国の関係の発展

アーサー・C・マレーは1917年から1918年までワシントンの英国大使館で陸軍武官補佐として勤務した英国大使でした。マレーはフランクリン・D・ローズヴェルトと仕事をする中で親密な友人関係を築き、1945年のローズヴェルトの死まで手紙のやり取りを続けました。マレー・ローズヴェルト往復書簡は、第二次世界大戦前の大統領の外交政策がどのように発展していったかを明らかにしています。

マレーの初期の手紙には、アイルランド自治評議会での彼の活動についての内容が含まれています。また第一次世界大戦中のウッドロー・ウィルソン大統領の主要な顧問であったハウス大佐との接触についても言及されています。これらの書簡は1937年の隔離演説や1938年のミュンヘン協定にも触れています。マレーのその他の交友関係には、大恐慌時の商務大臣であったウォルター・ランシマンや、第二次世界大戦中のカナダ首相ウィリアム・ライアン・マッケンジー・キングが含まれています。

第一次世界大戦中、マレーはアメリカ合衆国駐在大使として、アメリカの政権と直接連絡を取り合うとともに、情報機関の同僚からアメリカに関する情報を受け取っていました。マレーは第一次世界大戦の前段階においてアイルランドの政治にも関与していました。彼は戦争が始まるまで自治評議会の会計担当を務めていました。フランクリン・D・ローズヴェルトは、マレーのアメリカ駐在期間中にマレーとの友情を育みました。1919年から1936年間の二人の往復書簡には、1932年のローズヴェルトの大統領選挙運動についての内容が含まれています。フランクリンの妻エレノア・ローズヴェルトは、マレーの死まで彼との文通を続けました。1949年から1953年のマレー・エレノア往復書簡には、NATO やその他の国際問題について議論した、最も詳細な内容の手紙が含まれています。



大学・学術機関向け価格

FTE (学生数+教職員数)	3,000~4,999	5,000~9,999	10,000~19,999	20,000~29,999	30,001 以上
買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください				

- ※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。
- ※Archive 買い切りの**年間管理費 (Annual Hosting Fee)**は不要です。
- ※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL:<https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail:info@kyokuto-bk.co.jp

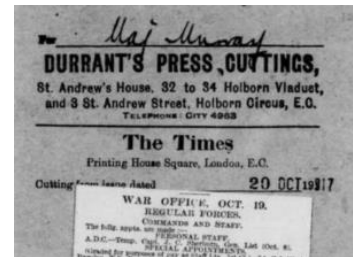




■期間別に、計 8 つのパートに整理されたアーカイブ

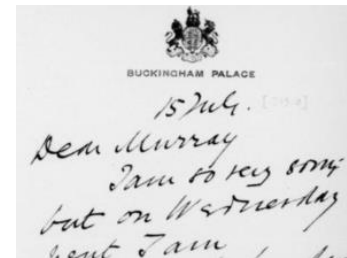
1. Correspondence for 1909–May 1918

マレーは、アイルランド自治法や第一次世界大戦中の英米協力を深く関与し、1917年にワシントンの英国大使館副軍事武官に就任しました。彼はレディング伯爵やノースクリフ卿らと共に活動し、フランクリン・D・ローズヴェルトとも親交を築きました。また、アイルランド問題や戦争準備における米国との関係改善に努め、情報活動を通じて重要な役割を果たしました。



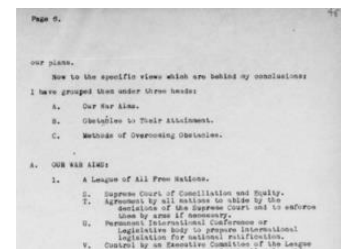
2. Correspondence for June–August 1918

この期間に、マレーは英米関係の強化に尽力し、アメリカの戦争協力が進展していることを評価しました。彼はウィルソン大統領による米軍の英仏軍編入の決定を称賛しましたが、アイルランド問題の進展の遅れに失望していました。また、マレーはロイド・ジョージ首相の演説が誤解を与える内容だったと苦言を呈しました。



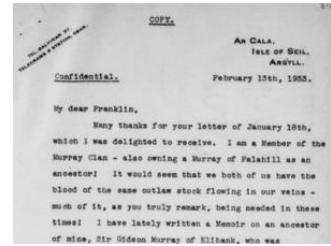
3. Correspondence for September–December 1918

1918年末のドイツ崩壊後、事態は急速に進展し、マレーはウィリアム・ワイズマンを通じてエドワード・ハウスやウィルソン大統領に情報提供を続け、パリ講和会議での役割を期待されました。彼はローズヴェルトと要人移動のための高速船の導入を協議しましたが、米当局は消極的でした。レディング卿は健康問題や戦後の大使職継続への意欲低下からアメリカには戻らず、マレーがアメリカとの関係再構築のために11月にワシントンへ渡りました。アメリカの議会選挙で共和党が多数派となりウィルソン政権への批判が高まりましたが、マレーはウィルソンの影響力は健在と評価しました。マレーは12月にイギリスへ帰国し、戦争で延期されていた総選挙が実施されました。ロイド・ジョージの連立政府は多数の支持を得て再選、マレー自身も無投票で再選を果たしました。



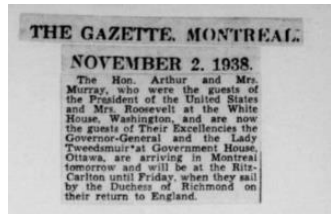
4. Correspondence for 1919-1936

戦後、マレーはロンドン駐在の米国大使やワシントン駐在の The Times 特派員らとの関係を保ち、自由党議員として英米関係において影響力を持ち続けていました。1920年、ローズヴェルトが副大統領候補となる際に祝電を送るなど交流を続けましたが、その後共和党が選挙で圧勝したことをきっかけに、英米関係へのマレーの関与はほとんどなくなりました。そして、1923年にマレーは選挙で落選し、政界を引退しました。1932年、ローズヴェルトがニューディールを掲げて大統領候補に指名されたことを機に再びマレーとの交流が始まり、ローズヴェルトが当選した後には支援の提案を行い、1936年にアメリカを訪問しました。ポトマック川でのヨット旅行を通じて友情を深め、世界情勢についても議論しました。



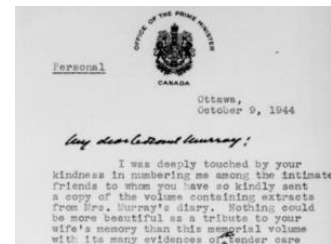
5. Correspondence for 1937-1943

本パートは、1939年の戦争勃発から1941年12月のアメリカの参戦までをカバーしています。この期間、マレーは英米関係の仲介役として活動し、ローズヴェルト大統領との交流を通じて、ヨーロッパ情勢について議論しました。1938年にはマレーを介してローズヴェルトからチェンバレン首相への秘密のメッセージを伝え、英仏支援を約束しました。しかし、1939年の戦争勃発後、チャーチルが首相になるとマレーの仲介役としての役割は減少し、チャーチルとローズヴェルトとの直接のやり取りが進展しました。それでもマレーは時折、チャーチルの判断に警鐘を鳴らし、英米関係についての助言を続けました。



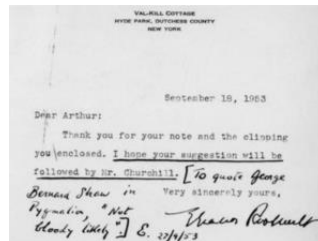
6. Correspondence for 1944-1948

マレーはワイズマンらとの交流を続けており、1944年にパリ解放後にはこれまでのアメリカの支援を感謝する手紙をローズヴェルトに送りましたが、これがローズヴェルトの死(1945年4月)前の最後の書簡となりました。マレーはローズヴェルトの妻エレンアとの友情も深め、1946年のチャーチルの「鉄のカーテン」演説を共に批判しました。また、カナダの首相マッケンジー・キングと再会し友情を確認しましたが、キングも公務の重圧で健康を害し、1948年に引退しました。



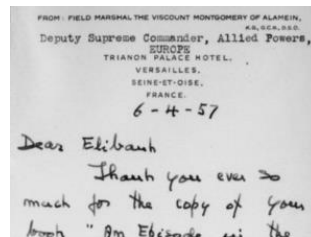
7. Correspondence for 1949-1953

この期間のマレーの書簡はローズヴェルト時代の思い出が綴られ、マッケンジー・キングやエレノア・ローズヴェルトらとの交流が続いていました。マレーはローズヴェルトの功績を称賛し、NATO 締結を特に喜びました。そして、エレノアの回顧録について、マレーは高く評価していました。1950 年にマレーとエレノアはロンドンで再会し、冷戦や中国との関係について議論しました。朝鮮戦争が始まると、マレーは米国の対露政策を批判し、その批判はエレノアを通じてトルーマン大統領や国務省にも伝えられました。トルーマンや国務省はマレーの意見に批判的でしたが、エレノアはマレーに共感を示しており、マレーとエレノアは 1953 年の朝鮮戦争終結まで手紙で議論を続けました。



8. Correspondence for 1954-1962

第 3 代エリバンク子爵となったマレーは、エレノア・ローズヴェルトとの交流を続けており、また 1930～1936 年にオーストリア駐在公使を務めた Sir Walford Selby とも交流がありました。マレーはエレノアとの書簡の中で、行き過ぎたマッカーシズムやアイゼンハワー政権を批判する一方、民主党の新星 Adlai Stevenson への期待を示しました。また、Selby との書簡の中では、1930 年代のナチス宥和政策や戦争勃発の責任について、特にジョン・サイモン外相を批判し、Selby から称賛を受けました。1954 年、マレーは Selby に勧められたフランクリン・D・ローズヴェルトとの友情を記録した回顧録の執筆を決意し、1955 年に The Contemporary Review に発表。これがマレー最後の出版物となり、1962 年に 83 歳で亡くなりました。



■BOA のご利用で日本国内に居ながら原資料を閲覧することが可能になります
印刷やダウンロードも可能なため、原資料へのメモやコメントの書き込みや
線を引いたり、付箋を貼るなど柔軟な活用ができます



British Online Archives の詳細お問い合わせは弊社まで

 日本総代理店 **極東書店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp